



牟岐町の職人さん。「辞めていく人がほとんどおられない職場です。職人も募集中」と工事主任の岸慎二さん(右端)。



海部病院の完成予想図。前を通る道が牟岐バイパスだ。



「HORNS」はハザード オオタケ ラジオ ネットワーク システムの略。災害時には社員がアマチュア無線を活用し、避難支援や救援を率先して行う仕組みを作っている。



病院が立つ高台の北側。沼地だった場所を改良し道が造られている。



工事場所…牟岐町中村
工期…日和佐牟岐線
平成26年1月～平成28年12月
牟岐バイパス第2橋下部外工事
平成27年12月～平成28年8月

現場監督を務めるのは橋本美春さん(43歳・阿南市出身)。阿南高専を卒業後、21歳から土木の現場に立つ。



いしながら進めています」。海部病院、牟岐バイパス、避難広場の整備という3つの事業を国、県、町の3者が共同で推進しているのが特徴。高台のすぐ下(北側)ではバイパスの橋下部外工事が並行して進む。沼地だった場所にセメントを注入して地盤改良し、盛土をして橋下部を造っている。現場では21歳から62歳まで約20人の大竹組の職人が、災害から命を守る道づくりに打ち込んでいます。

VU100
HI20T
SGP25A
VP50

設備材料を販売しております。
日曜日は朝8時より半日営業

日曜日も配管工事をお助けします。

徳島市佐古三番町5番22号
電話 088-654-7161



事前調査したデータに沿って山を切っていく。



アクセス道の排水溝を整備しているところ。



既に山を切り法面工事が終わっている部分。

職場は地球

道路、トンネル、橋、堤防、ダム…。当たり前のように存在するもの向こうには必ず人の営みがある。日常生活を支える職人たちの現場と軌跡を追う。

県南地域の新たな防災拠点づくり
津波から命を守る道を作る

H27波土 日和佐牟岐線牟岐中村道路工事
平成27年度 牟岐バイパス第2橋下部外工事

牟岐駅からほど近く、国道55号より西側に入った高台で大規模な工事が行われている。現場には巨大な構造物の骨組みが立ちあがり、その周辺の整備が進む。建てられているのは新しくなる海部病院。津波被害が心配されている現在の場所(国道55号付近)からこの高台へ移転することが決まっている。その新病院の周囲に造られているのが、病院へのアクセス道路や、津波の際に浸水区域を迂回する「牟岐バイパス」だ。現在の主要幹線道路である国道55号は、地震発生時の津波による浸水被害が予測されるが、ほかに代替路となる路線がないという課題を抱えている。この解決策となるのが牟岐バイパスなのだ。牟岐バイパスは日和佐道路を含む周辺道路と一体となつて広域な交通ネットワークを形成する。スムーズで円滑な移動を実現することはもち

ろん、緊急輸送道路として牟岐町、牟岐町以南の「命の道」となる。さらに、「病院のすぐそばには牟岐町の「避難広場」が造られる。災害の際に必要なものを備える備蓄庫が設置され防災の拠点としての役割を果たす。

猛暑の中、現場で汗を流すのは牟岐町の職人さん。もともと山だった場所を切り開いて造成し、擁壁や斜面の法面整備を着々と進めている。「二番手間がかかるのは調査や測量。ここをきっちりやるとかんと山は切り直しがきかんからね」と大竹組の岸慎二さん。図面を3D化するなど最新技術を駆使して精度を上げている。取材に訪れた8月上旬は、最後の山を切り開く作業のほか、アクセス道路の排水工事に取り組んでいた。「すぐ横で病院の建設工事が行われており、作業ヤードや侵入路など隣接工事との調整が大変。話し合